

日本海域における古代の祭祀 - 木製祭祀具を中心として - (九州地方)

菅波 正人(福岡市教育委員会)

1.はじめに

九州地方の古代の祭祀については、宗像市沖ノ島祭祀遺跡や太宰府市宝満山祭祀遺跡などが知られるが、官衙周辺での祭祀の様相が分かる例は多くない。本報告では九州地方の古代の木製祭祀具について、大宰府及びその周辺地域での事例を中心に概観していきたい。

2.事例報告

1) 大宰府政庁とその周辺

大宰府政庁が位置する場所は、周囲を大野城、基肄城といった山城で囲み、博多湾に面した平野側には水城を築き、外敵からの侵入を防ぐものであった。さて、大宰府において、木製祭祀具の出土例は政庁南門の前面で若干のまとまりが見られる。政庁前面西側の不丁官衙地区と呼ばれる場所で検出された南北溝 SD2340では、8世紀前半の人形が出土している。また、この溝に平行する南北溝 SD 320では8世紀後半の斎串、刀形、琴柱形、陽物形の木製品が出土している。この場所は水城にある東西2つの門のうち、東門を貫ける官道との合流部分にあたり、これらの木製祭祀具は官道を通じて入る穢れ等を祓う儀式で使用されたものと考えられる。大宰府においては木製祭祀具の出土例は多くないが、その形態や出土する場所には平城京や平安京などに共通性が認められる。

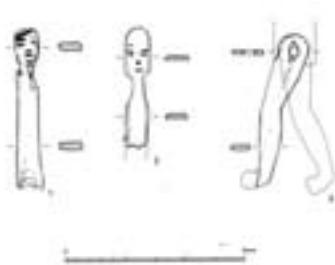
大宰府からは水城の東門から貫けるルート(大宰府路)と西門から貫けるルート(壱岐、対馬路)の二つの官道が伸びている。その内、東門から貫ける官道の最初の駅となる久爾駅の推定地付近にあたる高畠遺跡では8世紀前半から10世紀の遺構から人形、斎串、舟形、鳥形、刀形、陽物形、絵馬の他、人面墨書き土器等が出土している。大宰府周辺では人面墨書き土器はこの地域に集中しており、福岡市井相田遺跡、大野城市仲島遺跡等で出土している。また、大宰府より北西に流れる御笠川の右岸にあたる、雀居遺跡や下月隈C遺跡でも8世紀～9世紀の人形や鳥形、斎串等が多数出土しており、この川の流域に祭祀の場があったと考えられる。これらは水城の外側の位置する官道や河川に隣接する遺跡で、大宰府に入る穢れ等を祓う祭祀の場所であったと推測される。

元岡・桑原遺跡群は福岡市の西端にあたり、玄界灘に突出する糸島半島の東側基部の丘陵地帯にある。ここでは祭祀に関わる木簡と関連遺物が出土した。「解除」銘の木簡に記された「人方、馬方、弓、矢、酒、米」等の品目は大祓の祓具にも共通する一方で、「水船、五色物、赤玉、立志玉、栗木、木」等は都城の祓具にないものも含まれる。

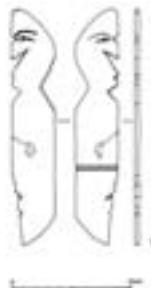
また、20次調査で出土した人形、弓、矢、舟形等は「解除」銘木簡にも見られるものであるが、丸木材を使用した舟形に見られる特徴は地方色が強いものである。木簡との関連を含めて、非常に興味深い。一方、「道塞」銘木簡は道の祭祀に関わるものと考えられ、博多湾に面した地理的状況から外国使節の来着を意識し、疫病等の侵入を防ぐための祭祀に使用された可能性が推測される。

3.おわりに

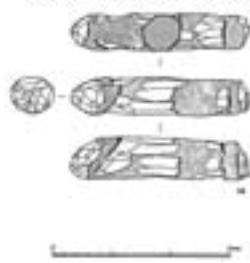
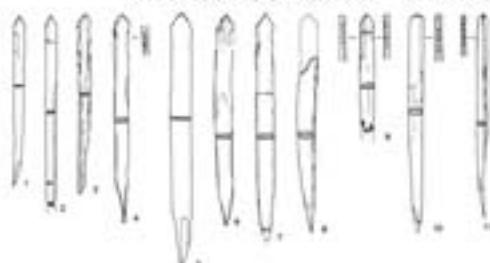
本報告では大宰府とその周辺地域の事例を見てきた。大宰府においては、政庁や水城の内側に入る前の官道沿いや河川といった場所で、人形や斎串、人面墨書き土器を使用した祭祀を行う状況は平城京や平安京に共通するものと言えよう。一方、元岡・桑原遺跡でみられる木簡や木製祭祀具の様相は律令祭祀に共通するものと地方色の強いものが混在する状況にあり、大宰府とは異なる様相を窺うことができる。このことは地方への律令祭祀の展開を考える上で興味深い。



SD2340出土木製品実測図（史跡85次）



SD2340出土木製品実測図（史跡87、90次）

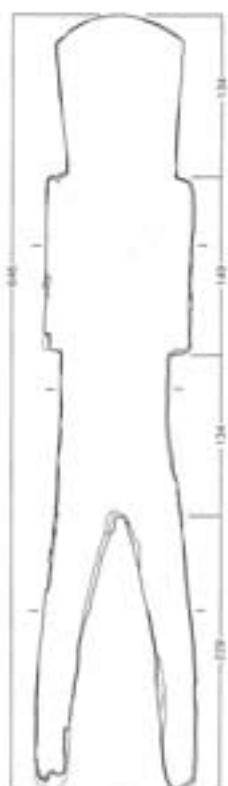
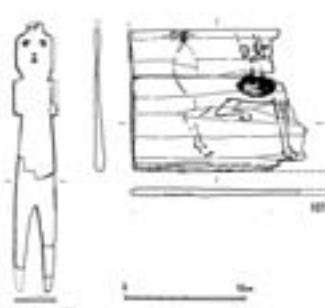


SD320出土木製品実測図（史跡76次）

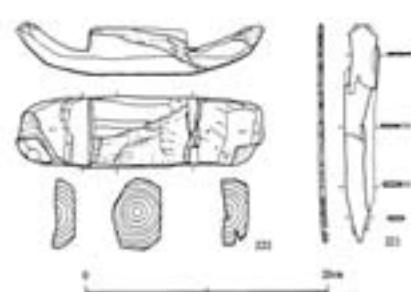


SD320出土木製品実測図（史跡14次）

大宰府出土の木製祭祀具



（福岡市高畠17次）



（福岡市井相田1次）

（福岡市雀居12次）

大宰府周辺出土の木製祭祀具

